

安倍幸明 作曲

フルートとピアノのためのソナタ 第1番

広島県広島市の軍人の家庭に生まれた作曲家。1929年に東京音楽学校に入学してチェロを専攻。1944年召集を受け、海軍水兵として終戦まで応召する。終戦後も旺盛な作曲活動を続け1949年平尾貴四男や高田三郎らで「地人会」を結成。

ベートーヴェン研究家でも有名な安倍幸明の作風の特徴は「 unnecessaryな虚飾を排した、一本芯の通った構成感」であり、それまでの戦前の日本の作曲家によく見られた「構成力の欠如」という弱点がクリアされ、良い意味での「シンプルさ、分かりやすさ」を持っている。

フルートソナタ1番は戦時中の1942年の作品で、端々に見え隠れする日本音階がわらべ歌や雅楽を匂わせるフルートのメロディーとなっており、日本人の心を揺さぶらせるものがある。また、西洋音楽への熱意と激動の時代を感じずにはいられない作品である。